

市町村合併を 考えよう！ No.2

先月号から「市町村合併」について皆さんと一緒に考えるため、シリーズで掲載しています。今回は「合併論議の背景と視点」についてお知らせしました。

今回は市町村合併の効果について考えてみましょう。

より不便になりませんか？

全国的にみると、現在の地方自治体の形がほぼ整ったのが、昭和三十年前後の「昭和の大合併」といわれた時代であり、その後四十年以上が経過しました。その間、市町村を取り巻く環境は大きく変化してきました。

さらに、出生率の低下や高齢化の進行により、二十一世紀半ばには三人に一人が六十五歳以上になると予想されています。

少子・高齢化の進行は、保健・医療・福祉などの社会保障に係る財政需要を今後一層増大させることが予想されます。行政の枠を広げ、できるだけ多くの住民の薄い負担により対応し、質の高いサービスを安定的に提供しなければなりません。

市町村が合併して、大きくなった場合どんな問題が予想されるのでしょうか。

Q役場が遠くなって、今まで

〔県内市町村の老年人口比率〕

区分	市町村数	構成費
20%未満	17	14.2%
20%以上25%未満	34	28.3%
25%以上30%未満	33	27.5%
30%以上35%未満	17	14.2%
35%以上	19	15.8%
計	120	100.0%

(注) 県情報政策課推計(平成12年4月1日)

(参考) 長野県の老年人口比率: 21.2%、全国の老年人口比率: 17.1%
白田町の老年人口比率: 24.8%

ので、窓口サービスの場合は、合併前より増えることになり、仕事先の環境によっては便利になる場合もあります。

Q 中心部だけが良くなって、周辺部はさびれませんか？

A 合併前に、地域住民の皆さんの様々な意見を反映させながら、市町村間で合併後のまちづくりをどのように進めるかを話し合い、中心部だけでなく、周辺部の事も配慮したまちづくり計画(市町村建設計画といいます)を作ることができます。

Q 住民の声が届きにくくなってサービスのきめ細やかさが失われませんか？

A 合併すると地域が広くなり、住民の数も当然多くなります。その一方で議員の数は減ることになりますから「合併前より地域の声が行政に反映されにくくなるのでは？」という心配がされます。しかし、地域の声をできるだけ行政に反映させることは住民にとって、大切なことです。例えば「市町村長への手紙」、

「住民相談」「地域懇談会」

など、方法を工夫して地域の声をくみ上げることが必要と考えられます。

Q 各地域の歴史・文化・伝統などが失われていきませんか？

A 合併前の地域において、それぞれ育まれてきた歴史・文化・伝統などについては、旧市町村の名称を市町村内の町・字名や学校などの公共施設の名称などとして残したり、合併を機に地域の史料館などを整備したりして、新市町村の貴重な財産として守っていくべきものです。

製造事業所の皆様へ 統計調査にご協力ください

12月31日現在で、次の統計調査が同時に行われます。

◎平成13年工業統計調査

製造業を営む事業所の実態を調査

◎平成13年石油等消費構造統計調査

従業員30人以上の製造事業所の石油等の消費実態を調査

これらの調査結果は、行政の重要な基礎資料として利用されるほか、小・中・高等学校の教材など、広く利用されています。

調査をお願いする事業所に、12月中旬から1月にかけて、県知事が任命した統計調査員が調査票を持って伺います。

なお、提出していただく調査票については、法律に基づき秘密が厳守されますので、正確な記入をお願いします。

町営住宅入居者募集

下越町営住宅A・B棟の入居者を募集します。

◎申込期間: 平成14年1月28日(月)～2月15日(金)

◎受付時間: 午前8時30分～午後5時15分

◎受付場所: 白田町役場総務課財政係

※入居資格等、詳しくは白田町総務課財政係

(電話82-3111)までお問い合わせください。